



平成28年10月24日

森町長 太田康雄 様

森町まちづくり検討会

代表 白澤 慶

松下 信義

森町まちづくり検討会 意見・提案書の提出について

このことにつきまして、平成28年6月23日から10月5日までの8回にわたって検討してきました第9次森町総合計画策定のための森町まちづくり検討会での意見・提案書を別冊のとおり取りまとめましたので提出します。

【第9次森町総合計画策定のための】
森町まちづくり検討会

【意見・提案書】

平成28年10月

森町まちづくり検討会の概要

(1) 会議の目的等

第9次森町総合計画の策定にあたり、町民の皆さんの主体的な参加により、話し合いを通じて、町民と行政が協働で取り組むべき、『これからの森町のまちづくり』について検討し、具体的な提案をいただくための機会として設置しました。

森町の姿（良いところ、悪いところ）」についてテーマを設けて再確認するとともに、未来を見据えた「町民と行政による協働のまちづくりの取組」などを含むまちづくりの意見・提案を「グループ」で話し合い、その後一定の書式にとりまとめました。

(2) 開催概要

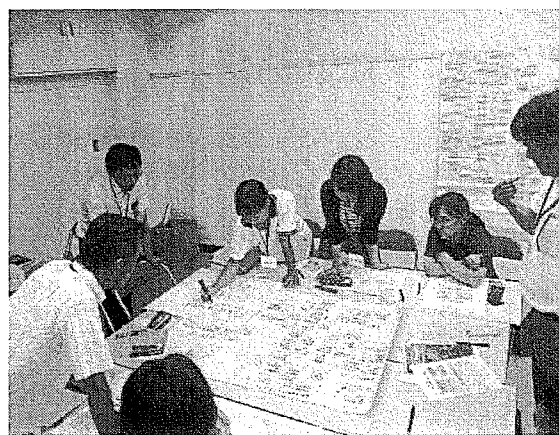
森町まちづくり検討会は、以下のとおり開催しました。また、グループ提案のとりまとめ後、有志メンバーにより、自由討議が行われました。

回	開催日時	内 容
第1回	6月23日 午後7時から	○オリエンテーション ●グループワーク 森町の現状・課題等の共有（森町の良い点・悪い点）
第2回	7月12日 午後7時30分 から	○テーマ別グループ分けとリーダーの選出 ●グループワーク テーマ別課題の検討（良い点・悪い点のふりかえり、シール投票による検討テーマの設定）
第3回	7月27日 午後7時15分 から	○第8次総合計画の評価について ●グループワーク 良いところを伸ばし、悪いところを改善する、まちづくり提案の検討（第4回へ継続）
第4回	8月9日 午後7時15分 から	●グループワーク 良いところを伸ばし、悪いところを改善する、まちづくり提案のまとめ
第5回	8月25日 午後7時15分 から	●グループ意見・提案の最終確認、発表 ○検討会会長の選出
第6回 第7回 第8回	9月7日 9月21日 10月5日	○自由討議 ○まちづくり検討会での協議をふまえた各メンバーからの個人意見・提案の発表、意見交換

(3) グループと検討テーマ

森町まちづくり検討会の意見・提案の検討にあたって、「テーマ」に応じたグループを設定しました。

テーマ（グループ）		中心的な検討事項	メンバー
A	産業振興・ まちづくり全般	◆工業（企業）、商業、茶産業 ・農産物等の振興 ◆生活基盤・土地利用 等	天野 利佳津 石田 淳子 長田 夏海 佐野 暢昭 白澤 慶 日比野 里映 山田 勝恵
B	生活環境・文化・ 教育・福祉全般	◆生活環境 ◆防災等の安心、安全の確保 ◆スポーツ、文化 ◆教育（学校教育・生涯学習） ◆福祉・健康・医療 等	大石 雅美 岡戸 章夫 川合 和代 久保下 和義 志水 浩人 早川 幸恵 松下 信義 村松 加代子



<Aグループ>

テーマ：産業振興・まちづくり全般

1) 私たちからみた森町の特徴について（良い点・悪い点）

分類(キーワード)	関心度	(良い点)	(悪い点)
お茶・農産物・水	2	お茶屋さん(製茶)がたくさんあるのに、住み分けができていく気がする。 お茶がおいしい お茶屋さんが多く、集客の為に工夫されている。 お茶屋さんの店は工夫されていて楽しい お茶の町 酒店ががんばっている お茶・治郎柿・レタス 農産物がおいしい。 農産物のさらなる発展化(トウモロコシ・レタス・茶) 米や水が美味しい。 農産物。豊富で自慢できるものがたくさんある 農産物は町外からも、たくさんの方が買いに来てくれる	
伝統・文化	1	伝統芸能(舞楽、祭り)が残っている	
土地・生活環境	6	猪や鹿の肉が食べられるので、街中に住んでいる人に自慢できる。 自然を活用した遊び場がある(アクティ森) 高齢者の健康維持 住み良い町づくり(お通者度) 緑豊か、空気がきれいに住みよい とても静かな街なみであり、落ちついて住みやすい。 利用できる土地がたくさん空いている。	旧信州街道の古い家と新しいモダンな家が混在しているため景観が悪い 人材育成が遅れている 後継者 田舎で土地は沢山あるのに生かせていない。 耕作放棄地が多い。有効利用を考える必要有 耕作放棄地増加 農業後継者がいない 茶業の後継者不足 放棄農地が獣害を育ててしまっている
人と企業誘致	5	町に雇用を生む企業がある。豊田合成、ヤマハなど	求人情報が表になかなか出て来ない 企業誘致のためのキャッチコピーがない 移住者の受け入れ体制が整っていない 新東名ICを生かした企業誘致がうまくいっていない 工業誘致が進んでいない 企業誘致(工場少ない) アクティ森は冬に集客できない。温泉が必要
商業系	4	特色ある手作りの店がある 和菓子屋さんが多い 菓子屋さんもそれぞれ個性があって、いい店が多い。	森町としてメディア露出が少ない 他県から森町が知られていない 農産物のブランド化が遅れている 観光の人が食事する所、宿泊する所がない お土産(特産品)を売っている場所が明確でない。勤務中によく質問される。 とうもろこしだけが特産品だと思われる。 町内の商店の活性化。 店が近くにない。 老人が買い物に行けない。 県外からも人が集まる甘々娘の活用法。(もつと集客できるのでは…?) 商店街に人がいない ダムに商業施設がない 森町にしかないものが少ない(差別化) 小国神社の参道の整備。そこから中心市街地への誘導が必要。 せつかくの特産物を使った目玉商品、“名物”が少ない?
インフラ	0		森町PAからのアクセスが良い反面、広域農道に信号がない。ワインディングで走りやすい等の理由で広域道をサーキットがわりにする人がいる。 周遊バスがない。100円バス(掛川)のような交通の便を良くする。特にバス路線。 車以外に交通手段がない地区がある。 夜暗い 光インターネットが繋がらない地区がある
周辺市町村とのコミュニケーション	3		周りの市町村との関わりが少ない?
その他	0	ダムカードがもらえる 道のバリエーションが豊富～あぜ道から新東名～	ビジョンがない

2) まちづくりへの意見・提案（良い点を伸ばし・悪い点を改善するために）

①検討表

すぐできそうなこと	ブランド化 土地・生活環境 猪・鹿などのジビエや 特産品を使ったB級グ ルメを作る 地場産業を更に伸ばす トウモロコシ、レタス、 お茶は減少しつつある のでもっと力を入れる 補助金等	森の水を販売する ケモノの食肉化を食育 として取組む 猪・鹿を食肉として観 光資源化 「遠州小京都からの贈 りもの」地場産セット	町のPR 健康長寿お達者度No. 1 をア ピールしたメディア露出 継続性、生産性のあるイベント ・お達者ウォークラリー ・お達者パワースポット ・お達者スイーツ ・お達者体操・・・ ただの“イナカ”から、程よく 手入れされた、ちょうど良い “イナカ”へ
	町の認知度アップ 【発信力不足を補う】 悪い所を改善 町の中の人・店・企業等 を細かい部分にも焦点 をあてて FaceBook や twitter などて拡散する ⇒いしぼん 発信力不足 いしぼんの着ぐるみを 作り、イベント等で有効 活用し、森町をPRして いく いしぼんを公式キャラ クターに ゆるきゃら（森のいしぼ ん等）の活用 周辺市町村のイベント に参加する	商業促進 町中の商業の活性化。シ ャッター通りにしないた めに、各店舗のまとまり の強化。町中の人が集ま るような事を考えよう 商業系(交通) ・老人が買い物に行きや すくするためにワンコイ ン周遊バスを作る、予約 不要!! ・天浜線駅をバス路線の 拠点にする 移動式(車)店舗で買い物 困難地域を回る <商業・発信力>森町自 慢の品はたくさんある。 ネット販売を進める <商業・発信力>多くの 集客可能イベントがあ る。お土産や特産品など を売る工夫をする 例→ドレース大会、町並みと 蔵展、石松まつり、森ほ たる祭り	観光・集客 人と企業誘致 日本茶(緑茶)のお茶屋さん とリプトン(紅茶)と共同でお茶 祭りを行ない、お茶の町であ ることをアピール 限定のダムカードを配布する (数量限定・期間限定) 良い所をのばす。町全体に人 が来て周遊してもらうために スタンプラリーを行う とうもろこし祭を開催する ハタナカと共催でキャンプ体 験を開く 里山の観光景観化（猟友会、 森林組合、農家、観光協会） 猟師が農家になり農家が猟師 になる相互協力体制

自分達で、できそうなこと

農作物
残り物には福がある
(落ちないリンゴ)

ダムで“ムダ商店”
家にある余分(ムダ)な
ものをもちよって、欲
しい人に売って昇天さ
せてあげる

発信力不足、商業
森町PAと町の中がア
クセス良いので(←こ
こをアピールしたい)
広域農道で町主催のヒ
ルクライムを開催

PAにターゲット・目
的別のスポット・コー
スをまとめたパンフレ
ットをおく(ファミリー、友
達、カップル、みる、あそ
ぶ、食べる等)

PA～小国神社までの
道に花を植える等して
1つの名所にする

ふるさと納税の充実化

姉妹都市の拡充をして
お互いの交流を図る

土地の有効利用

自然や農業を活かした体験型観光
①耕作放棄地に比較的手のかから
ない物を育て「〇〇狩り」

耕作放棄地に花木を植え、花枝を
出荷、残った花で花見客(例 福
島県 花見山)

遊休地・耕作放棄地の有効活用
空地・耕作放棄地が多い、これを
有効活用するため、太陽光発電、
老人のための憩いの施設、子供の
ための遊び場公園の設置

時間がかかりそうなこと

若者誘致

大学のサテラ
イトキャンパ
ス誘致(専門的
研究科など)
茶専門学校

学校誘致 森町へ
若者を呼び込むた
め、大学専門学校
を作る

人の誘致

空き家バンクを作る
転入者に何か特典をつける

雇用促進・企業誘致

工業用水に問題があると聞くので水
が必要でない企業に絞って勧誘する

働く場所企業誘致。企業誘致のため
森町の利点のPR
・山手にあること
・第2東名があり交通の便が良い事
(アケル、インター、スマートインター)

企業誘致 個人事業主など事務所が
欲しい人に空き家利用を呼び掛ける
→格安で賃貸する

開業支援

いっそのこと有害鳥
Zoo(獣) 害獣⇒益獣

緑豊かな空気がきれい
な事を生かし人の集ま
る施設を作る(〇〇マウ
ンティン遊園地)

“小京都”らしい町づ
くりを町全体ですすめ
る(建築物、補助金を出
す等)

温泉を掘り観光施設の
1つとする

ライダーズハウス
キャンプ場

土地・生活環境
星がきれいなこと、と
うもろこしが美味しい
こと等から天の川観察
会、農作物狩りをでき
る環境をつくる

IT環境・人材育成

ハード面、他市ではタ
ブレット電子黒板
導入

ハード面、中古パソコ
ンとインターネット
子供に用意

ICT現状把握
調査

人材育成が遅れてい
る⇒小学校・中学校の
ICT教育

ソフト面、教えること
の人材(先生)を教育

企業＝地域が育てる
(おうえん)自営業・中
小企業・農業

行政が、やるべきこと

②意見・提案のまとめ（重要度上位3項目：◎>◎>○）

IT人材育成

IT機器の各事業所、各家庭の現状調査
光ファイバー、WiFiの地域の環境整備
ITを教える人(人材)の育成（事業所向け、子どもたち向け）
タブレット、電子黒板の導入（学校向け）
自営や中小企業農家へのIT支援

企業と人の誘致

◎東名・新東名のアクセスの良さを生かした企業誘致
個人事業主・作家など事務所・工房がない人に空き家を貸す
開業支援セミナー、相談室を開く
◎学校誘致（専門学校 大学のサテライトキャンパス）で若者の誘致
空き家バンクを作る（情報提供→空き家の活用）
○転入者に特典をつける（転入後のアフター支援）

農地・耕作放棄地・宅地等の有効利用

耕作放棄地の活用（公園の建設、老人のためのいこいの施設を作る、子供のための遊び場を作る、太陽光発電）
森町ならではの自然を活かした体験型観光エリア（収穫体験、わらび、栗など）

森町のブランド商品の推進

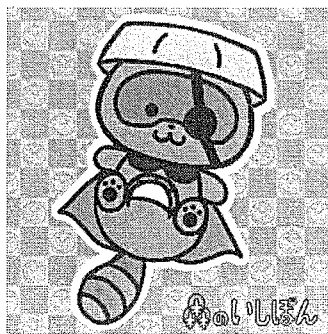
◎森町のおいしい水を販売する
「森のお茶」ブランドをつくる
○ジビエ料理や特産品のB級グルメを考案する
◎「遠州小京都からの贈りもの」地場産セット

森町に人が来てもらうための観光集客

- ◎祭りを開催する（特産品祭り、季節ごと）
- ◎アウトドアでの集客（ライダーズハウスをオープンする、キャンプ場の設置（ライダーの集客）、ハタナカと共催でキャンプ体験を開催する）
- 周遊、リピーター獲得のためのスタンプラリーを行う
- 里山を応用した観光施設（星空観察会、とうもろこし狩、有害鳥獣 ZOO など）
- 小京都らしい町づくりを町全体で進める（補助金を出す、統一感のある街なみ作り）
- 温泉を掘って観光施設をつくる
- 人を集めるイベント（広域農道を使ってヒルクライムを開催）

町の認知度 UP とそのための PR 方法

- ◎ゆるキャラ（いしぼん）を推しキャラクターにし、周辺のイベントに参加する
- FaceBook、twitter 等での町情報の拡散
- ふるさと納税を充実させて地場産品のアピールをする
- “ちょうど良い田舎” をアピールする
- “健康長寿” をアピールする
- OPA などのパンフレットにターゲット・目的別のスポットやコースをまとめる
- 姉妹都市の拡充をしてお互いの交流をはかる
- リプトンと共同でお茶まつりを開催してお茶の産地をアピールする



</

2) まちづくりへの意見・提案（良い点を伸ばし・悪い点を改善するために）

①検討表

個人での情報発信		組織的信息発信		
町民自らが SNS 等で情報発信する	森町で行われているイベントを SNS で発信する	森町にゆかりのある人たちでつくるネットワークづくり	情報発信の NPO をつくる	「森町のよいところ」を話し合う場をつくる
コンパクトシティの良さを PR する	現代の見方による小京都の魅力をつかって発信する	地域おこしに成功しているメンバーに学ぶ（書籍&会いに行く）	森町に住んでみませんか！という呼びかけをいろんなメディアを使ってPRする	情報発信する媒体を森町の中につくる

お達者度を PR	
お達者度 NO.1 を世界に発信する⇒研究者・観光客の誘導	森町が元気に働ける良い町であることを HP などで知らせる
元気なお年寄りが活躍している場面の紹介の回数をもっと増やす	お達者度をもっと PR して森町に関心を持ってもらう

子育て支援の情報発信		
森町で子育てするメリットをもっと PR する	子育て支援の情報を発信する	小規模小学校の良さを PR、活用方法を町と出して実行する交換授業等

情報発信のサポート
SNS 等の活用方法を、専門家を招いて勉強する（事業者対象、個人対象、観光情報発信イベント）
SNS 発信を遠江高校の学習の1つにする
森町の SNS 発信をしたらポイントがたまって森町の特産品がもらえる

すぐできそうなこと

役場からの情報発信
ご当地情報発信の実績のある市町村にアドバイスを求めプロジェクトチームを発足する
情報収集能力を高める（発信と収集の両輪が必要）「情報戦略室」の設置
役場職員が ICT の重要性を理解し(自主的に)勉強する

同報無線の活用
同報無線を利用して情報発信する
ICT 活用（同報無線の活用）
同報無線に楽しいコンテンツを盛り込む
同報無線を有効活用して情報発信
歴史・文化の紹介を同報無線を使ってテーマ毎に紹介していく

空き家の情報発信
空き家を活用して欲しい物件をリスト化して必要な人に知らせる
空き家バンクをつくる
（空き家で）商店に活用して欲しい物件などをリストにして知らせる
住む場所（造成地）の確保
ハウスメーカーとのタイアップ
森町への定住の不動産情報
森町 HP 等で空き家の利用情報を流す

自分達で、できそうなこと

イベントで PR

森町の PR イベントを行う

ウォークラリーで森町の情報を発信する

二番煎じではない森町独自の文化、産業に基づいたイベントを長く続けることで周知を図る。袋井に対抗！

イベントを増やして森町をアピール（フルマソン、ウォークラリー）森町を紹介するものを入れる

観光案内ボランティアチームの設置

ドローンを使って森町を PR（PV、歴史編、花火、祭り）

PV の作成

ご当地ビデオの作成（おもしろい物）移住を促す（不動産情報）、安心して過ごせる（医療、福祉、教育）、会社の誘致（第2東名アクセス）

ビデオ森町版（ドラマ）「ええら森町」を作成して PR する

地域おこし協力隊を立ちあげて PR

ゆるキャラ作成

森のいしぼんの応援（ゆるきゃらグランプリ登録）

ゆるキャラ、森町をイメージできるキャラクターがいてもいい

企業とコラボ

商工会とタッグを組んで個人開業をバックアップする

森町近隣企業に協力を得て情報を発信する

天浜線を使って森町に来るアクセスを PR

天浜線活用
森町内の五の駅を商店街化計画としてそれぞれの駅を拠点にする

古い町並みを生かした小さな店を気軽に始められるシステムづくり

ええら森町をもっと活用する

農産物を生かした事業開始をバックアップする

アクセスの確保

安心して生活ができる（アクセス）高齢になっても（一人で）銀行、病院、買い物に行く手段が確保されている環境づくり

シェアタクシーのようなシステムづくり

移動販売車による買い物難民の解消

町営の小回り・乗り合いタクシー（状況把握にもつながる）

人口対策

若者がなぜ森町から出ていくのか調べる

人口が減っている原因をたたく

人口流入の目標値を各町内会レベルで設け、具体的な行動を促す

既存の施設の活用

リハビリ施設を活用してスポーツ選手を呼び込む

さざんか荘の跡地を森町展望台及びイベント広場にして活用する

文化会館の利用度を高める

ミキホールを若い人が音楽活動に使ってもらえるように使用しやすい方法をつくる

（森アリーナに隣接して）総合体育館を大学の合宿で使ってもらえるような施設をつくる

夢づくり大学だけでなく大人も子供も学べる場所をつくる

インフラの整備

インターネット環境を整える

幼稚園・保育園を森町病院近くの広い所に建てる

高齢者安否確認システムづくり

土地区画整理（南部）して新しい町内会をつくる（若者の住む場所確保）

子育て世代が住みたくなる支援をする

平坦な地形を活用自転車を活用できるようにする

防災、安全、80歳以上の高齢者及び10歳以下の児童にGPS 受信機を持ってもらうようなシステムづくり

施設案内の看板を増やす

WiFi などのインフラ整備をして企業誘致を図る

病児保育を森町病院や保育園で実施

遠州の小京都資料館をつくって町内外の人たちへの理解を深める

子育て支援センターの充実（特に0歳児）

森の PA に高速バスの停留所をつくる

新東名インター周辺に宿泊施設や集客施設を誘致する

自然を生かした子供の遊び場をつくる（アスレチックや川下りなど）

時間がかかりそうなこと

行革

情報の公開を積極的に行う

町長と企画財政課自らが企画を進行し練る 自主性を持つ
コンサルの廃止

役場に特命チーム（例：戦略情報室）をつくり、情報発信を強化する

内部告発制度
風通しのよいスピード感のある組織づくり

その他

防災キャンプを各町内毎にコンパクトな形で取り組む

ドッグラン、カフェなど立ち寄りやすい場所をつくる

行政が、やるべきこと

②意見・提案のまとめ

個人での情報発信(SNS)

町民自らが SNS 等で情報発信する人を増やす
森町で行われているイベントを SNS で積極的に発信する
「小さな町ならではの」良さを積極的に PR する
遠州の小京都の PR。「現代的な」小京都の魅力を見つけて発信する

組織的情報発信

森町にゆかりのある人たちによるネットワークづくり
森町の情報発信を目的にした NPO 団体をつくる
「森町のよいところ」を話し合う場をつくる
「地域おこし」に成功しているメンバーから学ぶ（書籍購入・直接会いに行く）
「森町に住んでみませんか！」という呼びかけをいろんなメディアを使って PR する
情報発信する媒体を森町の中につくる

お達者度を PR

お達者度 NO.1 を世界に発信する。研究者・観光客の誘導
森町が元気に働ける良い町であることを HP などでも知らせる
元気なお年寄りが活躍しているところ（すがた）を積極的に紹介する
「お達者度」をもっと PR して森町に関心を持ってもらう

情報発信のサポート

SNS 等の活用方法について専門家を招いて勉強する（事業者対象、個人対象）
SNS 発信を遠江総合高校の学習内容の 1 つにする
森町について SNS で発信したらポイントなどを付与し、そのポイントに応じて森町の特産品などがもらえるようにする

子育て支援の情報発信

森町で子育てすることのメリットを積極的に PR する

子育て支援の情報を幅広く発信する

小規模小学校の良さを PR。活用方法の検討・実行は他の市町と協力して行う（交換授業等）

役場からの情報発信

ご当地情報発信の実績のある市町村にアドバイスを求めプロジェクトチームを発足する

情報収集能力を高める（発信と収集の両輪が必要）「情報戦略室」の設置

役場職員が ICT の重要性を理解し(自主的に)勉強する

同報無線の活用

同報無線を有効活用して情報発信する

ICT 活用（同報無線の活用）

同報無線に楽しいコンテンツを盛り込む

歴史・文化の紹介について同報無線を使ってテーマ毎に紹介していく

空き家の情報発信

空き家を活用して欲しい物件をリスト化して必要な人に知らせる

空き家バンクをつくる

（空き家で）商店として活用して欲しい物件などをリストにして知らせる

住む場所（造成地）の確保

ハウスメーカーとのタイアップ

森町へ定住するための不動産情報の発信

森町 HP 等で空き家の利用情報を流す

イベントでPR

森町のPRイベントを行う

ウォークラリーで森町の情報を発信する

二番煎じではない森町独自の文化、産業に基づいたイベントを長く続けることで周知を図る。袋井に対抗！

イベントを増やして森町をアピール。（フルマラソン、ウォークラリーなど）森町を紹介するものを入れる

観光案内ボランティアチームの設置

ドローンを使って森町をPR（PV、歴史編、花火、祭り）

PVの作成

ご当地ビデオの作成（おもしろい物）により移住を促す（不動産情報併記）、安心して過ごせる（医療、福祉、教育環境）、会社の誘致（第2東名による交通アクセス性）

ビデオ“森町版（ドラマ）「ええら森町」”を作成してPRする

ゆるキャラ作成

森のいしぼんの応援（ゆるきゃらグランプリ登録）

ゆるキャラ、森町をイメージできるキャラクターがいてもいい

企業とコラボ

商工会とタッグを組んで個人開業をバックアップする
森町の近隣に立地する企業にも協力を得て情報を発信する
天浜線を使って森町に来ること（鉄道アクセス）をPR
古い町並みを生かした小さな店を気軽に始められるシステムづくり
「ええら森町」をもっと活用する
農産物を生かした事業（起業）をバックアップする
天浜線の活用。森町内の五つの駅前を商店街化（計画づくり）して、それぞれの駅を「拠点」にする

アクセスの確保

安心して生活ができる。高齢になっても（一人で）銀行、病院、買い物に行く手段が確保されている環境づくり（生活施設へのアクセス確保）
シェアタクシーのようなシステムづくり
移動販売車による買い物難民の解消
町営の小回り・乗り合いタクシー（状況把握にもつながる）

既存の施設の活用

リハビリ施設を活用してスポーツ選手を呼び込む
観光。さざんか荘の跡地を町の展望台やイベント広場にして活用する
文化会館の利用度を高める
ミキホールを若い人が音楽活動に使ってもらえるように使用しやすい方法をつくる
（森アリーナに隣接して）総合体育館を大学の合宿で使ってもらえるような施設をつくる
夢づくり大学だけでなく大人も子供も学べる場所をつくる

人口対策

若者がなぜ森町から出ていくのか調べる
人口が減っている原因をたたく
人口流入の目標値を各町内会レベルで設け、具体的な行動を促す

インフラの整備

幼稚園・保育園を森町病院近くの広い所に建てる
施設案内の看板を増やす
インターネット環境を整える
Wi-Fiなどのインフラ整備をして企業誘致を図る
高齢者安否確認システムづくり
防災、安全、80歳以上の高齢者及び10歳以下の児童にGPS受信機を持ってもらうようなシステムづくり
土地区画整理（南部）して新しい町内会をつくる（若者の住む場所確保）
病児保育を森町病院や保育園で実施
子育て世代が住みたくなるように支援する
子育て支援センターの充実（特に0歳児）
森のPAに高速バスの停留所をつくる
新東名インター周辺に宿泊施設や集客施設を誘致する
遠州の小京都資料館をつくって町内外の人たちへの理解を深める
自然を生かした子供の遊び場をつくる（アスレチックや川下りなど）
平坦な地形を活用 自転車を活用できるようにする

行 革

情報の公開を積極的に行う
役場に特命チーム（例：戦略情報室）をつくり、情報発信を強化する
町長と企画財政課自らが企画・進行する
自主性を持つ
コンサルタントなどの有効活用
内部告発制度
風通しのよいスピード感のある組織づくりをする

その他

防災キャンプを各町内毎にコンパクトな形で取り組む
（ペットを飼っている人が多いので）ドッグラン、カフェなど立ち寄りやすい場所をつくる

**まちづくり検討会での協議を踏まえた
各メンバーからの意見・提案(第6～8回)**

No.	提案名
1	今あるものを掘り起こすと同時に保全する
2	積極的に観光の推進を図る
3	「遠州の小京都森町」の情報発信基地として活用する「遠州の小京都・森町郷土資料情報センター」（仮称）の設置
4	森町への新しい人の流れをつくるため（特に若年層）アート（展示芸術・舞台芸術）事業を中心とした施策を行い、アート感覚の溢れたまちづくりを目指す
5	若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
6	かわせみ湖を活用した小規模水力発電
7	NPOの活用と支援
8	町のPRの活性化、お金を稼ぐ方法について
9	耕作放棄地や休耕地を利用した安心な学校給食食材づくりと、お達者度日本一を目指した中高年の生きがいづくりで、安心な地域づくりを目指す。
10	今ある農業・豊かな自然・耕作放棄地を生かした体験型観光のまちづくり
11	学校の誘致
12	空き地、耕作放棄地の有効利用
13	三倉地区に「薪の駅」を作れないか？
14	薪ストーブ設置者に補助金を出せないか？
15	森町町長杯 小学生・中学生タイピングコンテスト
16	役場職員・教職員のICTスキルアップ講習（年間）

提案題名	今あるものを掘り起こすと同時に保全する
提案内容 (現状・効果)	・古い街並みを保全して後世に残すために、建築に関する条例を作る、住民協定を取り決める等をする → 古い家屋をやたらに取り壊したりなどの街並みを壊すことを防ぐ。 ・一定条件以上の家屋の補修については、補助金を出して補強工事を奨める。 ・空き家情報を整理し、賃貸できるもの、売却物件を明確にして、住んでくれる人を積極的に探す。 ※ まちづくりと商店街活性化は別ものとして考える。 ・新しい箱物は作らず、既存を活かす。 ・城下を観光資源として見直す。

提案題名	積極的に観光の推進を図る
提案内容 (現状・効果)	・町外から来る人のための道案内看板をわかりやすくする。 (道に迷うという声あり) (名士の家、中心部への入り方、天方城への行き方、古い街並み、寺社仏閣など) 現状は、お茶屋さん、バレエ教室の看板の方が目立っている。 ・たくさんあるマップを一元化し、それぞれの見所を色分け番号別で表記して分かりやすくする。町全図がほしい。 ・観光名所の看板の設置(ない所) ・駐車スペースの看板が必要(町外の人には分からない) ・民泊できる場所の案内を観光協会で行う。→ 地図に掲載 ・もりまちツアー(森町一周コース) ・四季を通じたスタンプラリーでリピーターを増やす→参加賞 ・夏はアウトドア、冬はジビエ ・観光大使

提案題名	「遠州の小京都森町」の情報発信基地として活用する「遠州の小京都・森町郷土資料情報センター」（仮称）の設置
提案内容 (現状・効果)	「遠州の小京都森町」の情報発信基地として活用する「遠州の小京都・森町郷土資料情報センター」（仮称）を建設し、森町及び遠州の小京都に関係する資料類をIT技術を活用し、一元管理保管及び保存、公開可能なものは常設展示・公示する。併せて、現役及び物故の郷土出身の文化人に関係した資料（研究資料・功績資料・芸術作品を含む）を展示・保管し、町民はじめ町外の人々にも、利用しやすい施設にする。 また、現郷土資料館に保管されている資料類も併せて展示する。併せて、町民に遠州の小京都に対する関心を広め、理解を深めるため「遠州の小京都森町の日」を設定し、啓発行事（高林基金顕彰表彰）を毎年行う。 なお、建設地は、文化会館駐車場西側の水田、又はその周辺の利用可能地。（理由：文化施設に隣接していること。天浜線森町病院前駅に近く他地域からも利用しやすいこと。） 現在及び未来に向けた文化政策の情報発信基地としても活用が期待できる。

提案題名	森町への新しい人の流れをつくるため（特に若年層）アート（展示芸術・舞台芸術）事業を中心とした施策を行い、アート感覚の溢れたまちづくりを目指す
提案内容 (現状・効果)	アート（展示芸術・舞台芸術）感覚の溢れたまちづくりを目指し、次のような事業によりアート施策を行う。 ①アート・イン・レジデンス事業 アーティスト（芸術のジャンルは不問）を招き、町民として生活しつつ、町民と協働で作品を創作し発表する。 ②アウト・リーチ事業 名の知れたアーティストを招き、若い世代の人たちに本物の芸術を体験するためのコンサート・展覧会を行う。 ③アーティストの移住事業 森町に移住して創作を希望するアーティストを募集し、創作場所（空き家・空き地）を紹介する。※注：全国には、創作環境の良い地方を拠点に創作を希望する作家が多い。町のホームページで、移住希望アーティストの募集をして呼びかける。 ④森町マイスター認定事業 古典芸能に関係する人、芸術文化に携わる人、農林業に携わる人、製造業に携わる人等、優れた技術・技能を持つ人を森町で認定し、「森町マイスター」の称号を贈る。 ⑤ 公民館活用事業 各地区の公民館の文化芸術活動を紹介しあう発表会を年一回開催し、地区文化への関心を高める。

提案題名	森町への新しい人の流れをつくるため（特に若年層）アート（展示芸術・舞台芸術）事業を中心とした施策を行い、アート感覚の溢れたまちづくりを目指す
提案内容 (現状・効果)	⑥ 遠州の小京都森町+（プラス）事業 遠州の小京都森町を現代的視点で新しさをプラスして、一層魅力的なためのアートなアイデアを町民から募集し、魅力的な景観づくりを実施する。 ⑦ 遠州の小京都森町トリエンナーレ事業 3年ごとに、8月1ヶ月間を「遠州の小京都トリエンナーレ」と称して、①、②、③、⑥で成果物となった作品や森町中の文化芸術・伝統を紹介するイベントを開催する。一般町民と町外からのアーティストが作品やパフォーマンスを行う芸術祭の主役となる。 ⑧ 天方城天守閣の建設事業 現在の城ヶ平公園に森町のシンボルとなる天方城の天守閣を建設する。観光資産としてや、町の景観向上に資することが期待できる。 （効果）事業の実施に伴い、森町の良さを若い人たちに印象づけて、森町はアートに取り組む町、明るく自由に楽しめて暮らせる町ということが訴求できる。そのことをきっかけとして、若い世代の人たちの移住・定着が効果として期待できる。

提案題名	若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
提案内容 (現状・効果)	① 出産祝金を増やす（森町で子育てをすることを条件に） 第1子・・・10万円 第2子・・・30万円 第3子以降・50万円 ② 町独自の奨学金制度をつくる 高校進学時・・・50万円 大学進学時・・・300万円 奨学金は無利子貸与 一定の成績条件付き 一人親世帯の子への優先を返済免除の条件をつける。 (効果) ・ 若い世代の子育て応援政策になる 子どもを町ぐるみで育てる行政にする ・ 家庭の事情で進学を諦めない。将来の目標が達成できる。

提案題名	かわせみ湖を活用した小規模水力発電
提案内容 (現状・効果)	地方の活性化のキーポイントの一つが、自然エネルギーの活用であり、国も力を入れている。 かわせみ湖は、吉川の水質低下やダム亀裂問題で負の公共工事のイメージが濃い。 改善するためにも、クリーンエネルギーの発信基地にすべきと考えます。 10年かけるにふさわしいテーマだとも思います。

提案題名	NPOの活用と支援
提案内容 (現状・効果)	財政がますます厳しくなる中、行政サービスも手がまわらなくなってくるはずである。 それに替わるNPOを行政も活用していくとともに、NPO立ち上げや運営についてサポートしてほしい。 空き家対策についてのNPOを立ち上げる準備中です。

提案題名	町のPRの活性化、お金を稼ぐ方法について
提案内容 (現状・効果)	森町にはお菓子店やお茶屋さんが数多くあるのに宣伝が少ないというか アクティ森が警察署くらいにあるといいけど、新東名PAでイベントして みるのはどうでしょうか。 地元の人だけで満足しているのは、もったいないです。 小京都をもっと広めてほしいです。 お祭りのお囃子でDVDを流したり、外に向けてほしい。 観光客が増えれば、森町もうるおってくる。

提案題名	耕作放棄地や休耕地を利用した安心な学校給食食材づくりと、お達者度日本一を目指した中高年の生きがいづくりで、安心な地域づくりを目指す。
提案内容 (現状・効果)	森町は、昨年お達者度日本一の町だけあって、お元気な中高年の方が多く生活をしています。 同時に、耕作しなくなった畑や、放棄された耕作地も多く見かけるようになりました。 安心な地域づくりには、健全な子どもの育成と、安心な食が一番大切だと思います。そして、それを見守る健康な大人たち（地域の人々）が必要です。 現在、定年退職をしてもまだまだお元気で、体を動かしたい人たちが大勢います。そして、高齢化、後継者不足により、山間地でなくても放棄された耕作地を見ることができます。 そこで、放棄された耕作地を無料でリタイヤした方々、耕作希望者に無料で貸し出し、低農薬・無農薬野菜を育ててもらい、それを学校給食に充てることを提案します。 もちろん、現役の農家の方にも協力をしていただき、野菜、果実の作り方、お手入れの方法を指導してもらいます。 学校で使う野菜等の量は計算できます。 組織を作り、コーディネーターを育成して、計画的な作付けと、確実な収穫を可能にするようにし、森町の子どもたちの給食材料を確保できるようにします。 子どもたちは、自分たちが食べるものは、自分たちのおじいちゃんやおばあちゃんが作ってくれているという安心感があります。 一方、作り手になる中高年は、子どもたちの成長の一部を担っているという喜びが、自分の健康への励みとして、ますます健康意識が強くなってきます。 何があっても、森の子どもたちの安全な食材を確保するという使命感が、子どもたちを、そして子供たちを見守る大人をつくります。 ひいては、健全で安心の地域を作ることにつながると思います。 材料はちゃんと買い上げて、作り手にお支払いすることで、お金がそこで回るようになります。 地元の食材だから、運送費がほとんどかからないことで、給食費を安く抑えることができます。 どこの誰が作ったかわかる安心感が、保護者の給食に対する不安をなくします。 このような環境の中で、子どもたちを育てていくことは、全国に誇れる、まちづくり、地域づくりにつながると考えます。 そうして、それを全国に情報として発信することで、森町に関心を寄せる人を多くして、空き家の情報、求人情報等を同時に流すことで、森町への移住を考えてみようとする人を多くすることが可能になると思います。

提案題名	今ある農業・豊かな自然・耕作放棄地を生かした体験型観光のまちづくり
提案内容 (現状・効果)	農業・・・茶・トウモロコシ・米・レタス・しいたけ・栗・治郎柿・いちじく・ブルーベリー等 収穫を中心とした体験観光 耕作放棄地・・・栗・わらび・ふき・花木等を植え、「〇〇狩り」観光 豊かな自然・・・笹ゆりの山・ススキの原・新緑のお茶畑・紅葉山城めぐり等を整備して、ハイキング等のイベントを企画 農業関連のイベント・・・しめ飾り・わら細工・こんにゃく作り・みそ作り・ハム作り・干芋作り・干柿作りなど、アクティ森などを中心に手作り講座の実施 ※森町には自慢できる農産物、お菓子、加工品がいっぱいある。それを各イベントでPRできれば買ってもらえるように仕掛ける。 ※最初は、多少、人手も資金も掛けないといけないが、継続していくには、そんなに手を掛けなくてもできると思われる。

まちづくり検討会での協議を踏まえた委員提案

提案題目	学校の誘致
提案内容 (現状・効果)	森町に学校(4年生大学又は短期大学、専門学校)を誘致をする。 学校の誘致により、多くの若い人たちを森町に呼び込む。 このことによって、住むところ(アパート等)の必要性が出てくる。 さらには、買い物をする店、食事をするところの必要性、ニーズが出てくる。 これらによる経済効果は相当なものがあると思われる。 また、これだけではなく、若い人たちに森町の良さをアピールし、色々な良いところを知ってもらう。 このことによって、中には将来森町に住みたいと思う人が出てくるのではないかな。 女性の中には、結婚して森町に住みたいという人もいるのではないかな。 若い人が増えれば、子供も増える。 子供が増えれば、人口減少に少しでも歯止めをかけることが出来るのではないかな。 その他にも、学校に通学するための電車利用により天浜線の利用が増える。 周智校の跡地も有効利用が出来るのではないかな。 このように学校を誘致することによって、その影響は多大なものがあると思われる。 すぐには出来ないのであれば、とりあえずは大学生を対象にした仮称[森町講座]の開講。 時期は夏休み等の期間を利用して10日から20日くらいの日数で。 内容は、森町の歴史、文化の勉強、特産物の生産・収穫体験など。 ぜひ学校誘致を！

提案題目	空き地、耕作放棄地の有効利用
提案内容 (現状・効果)	森町管内には、多くの空き地、耕作放棄地がある。 耕作放棄地は、これから増える一方で減ることはない。 これらの土地を有効に利用することを考えなくてはならないと思う。 その1つには耕作放棄地等に、太陽光発電を設置する。 さらには、老人たちが集まってのんびりと過ごすことのできる憩いの場所をつくる。 そして、子供たちが自由に遊べる遊具等が設置された広場、公園をつくる。 特に将来のある子供たちの為に遊ぶ広場は必要だ。 子供達には、外に出て元気いっぱい遊んでほしい。 町の中心部には公園が何ヶ所かはあるが、周りの地区には無いのではないかな。 私の住む地区には無いので、子供達が遊ぶとしたら公民館の広場しかない。 そこには、ほんの形ばかりの遊具しかない。 子育てをしている若いお母さん達は、子供たちが、安全でのびのびと遊べる場所それを望んでいる。 農地法等の厳しい縛りがあると思うが、もっと弾力的な対応を望む！ 農作物は作れるところでしっかり作る。 作れない場所は他に有効利用する。！

まちづくり検討会での協議を踏まえた委員提案

提案名称	三倉地区に「薪の駅」を作れないか？
現状考察	①周辺地域には「道の駅」があり地域の特産品の販売などを通して賑わいをみせ経済活動のかなめになっているが、森町では申請条件を満たすのは難しく「道の駅」の設置は難しい。 ②もちろん森町には宮の市や森の市やアクティ森などがあるが三倉地区には現在それ相当のものが無い。 ③仮に三倉に同等のものを開設しても現状では経営的に賑わうことは難しいと予測される。 ④しかしながら森町の北部で何らかの賑わいのある拠点が出来れば人・もの・金の動きができるのではないかと。 ⑤以前から森林資源の活用・活性化が叫ばれているがこれといったアクションがなされていない。
提案内容	三倉には山間部林業の拠点として「森町森林組合」があるのでここに「薪の駅」を併設して森林資源の流通を計る 「薪の駅」とは？ その狙いとは？ メリットは？ ①森林や林業が多く抱える中の一つに間伐材の有効利用が見いだせないでいる。 そこで放置せざるをえない間伐材を薪燃料として「薪の駅」に集約し販売をする拠点とする。 ②近年電力問題や地球温暖化問題への一つのアプローチとして薪ストーブの見直し・利用者が増えている。当然燃料は薪であるが薪の入手が難しいという問題があり、その需要に応えるべく「三倉の薪の駅に行けば薪が買えるよ」「薪のことで困ったらあそこに相談したらいい」など、いわば消費者と供給者の問題解決拠点とするのが狙いである。 ③「薪の駅」というひとつのブランド拠点で他の「駅」との差別化を図る。 モデル事業としてまず森町が成功させ軌道に乗ったら静岡県全域の山間部に推奨することも可能である。 ④今ある「森林組合」と融合することで初期投資は少なくて始められる。 ⑤同時に「薪の駅」にてイベントなどを催し農産物販売や森林組合によるチェーンソー講座やチェーンソーの目立てなどで集客や認知度を広めることができるなど展開方法次第でさまざまな可能性が生まれる。 ⑥薪ストーブの普及活動の担い手となる。 ⑦本来の「道の駅」とはコンセプトが違うので（休憩が主目的ではない）パロディとなるが山間部の特色を生かした拠点が出来る。
期待効果	①森林資源の有効利用で収益を産み出せる ②人・もの・金の動きを活発にし地域の活性化に繋がる ③循環型社会の一つの解決策に繋がる ④森町（三倉）ならではの取り組みで全国に発信できる（ネーミングがポイント） ⑤森林の再生に繋がる
課題	①期待効果と矛盾してしまうが利益を生み出す仕組みをどう構築するか？ ②主体はどかが担うのか？現状では森林組合の事業として行ってくれたらと考えるが①のごとく事業として成り立つ方策がないと受け入れは難しいと考える。 ③町が後援をするならどういう方法があるのか。 （単なる税金投入で赤字では意味がないが使える助成金など）

まちづくり検討会での協議を踏まえた委員提案

提案名称	薪ストーブ設置者に補助金を出せないか？
現状考察	①再生エネルギー利用で太陽光発電設備を導入する家庭が増えたが山間地では日照時間が短く太陽光発電設備を導入する家庭は少ない。 ②その代わりに冬の暖房対策で薪ストーブを導入する家庭をみかける ③太陽光発電導入には助成金制度があるが山間部等などには恩恵がなく不公平感がある。 ④薪ストーブこそ循環型社会の代表アイテムであり、より普及が望まれるものである 燃料は薪 → 燃焼して熱エネルギーとなる → CO2は当然発生する → 伐採した後に植樹をする → 木がCO2を吸収し成長する → 再び薪にする
提案内容	①薪ストーブの導入者に助成金を出す 【一般的導入費用参考】 薪ストーブ本体 20万円～40万円 *もちろん格安品もある 煙突等材料 20万円～30万円 工事費 30万円 合計 70万円～100万円 * 太陽光発電の助成金もわずかではあるので高額な助成は無理だと思うが例え1万円でも・・・ * 別途提案書で森林資源(薪)についての提案もしているので合わせて参照下さい。
期待効果	①わずかな助成金であれ導入者にとっては嬉しいものである。 ②森町は面積の70%近くを森林が占める森林の町であり森林資源を燃料とする薪ストーブを応援することは森町独自の有効な発信アイテムとなる。 (よそがやっていない事こそチャレンジ効果が期待できる) ③助成金制度があることにより関心が高まり、薪ストーブがより普及する ④結果的に環境負荷低減に繋がる
課題	①財源が確保できるかである。 (実質的には一気に何十件も導入があるとは思えないので十分可能と考える)

まちづくり検討会での協議を踏まえた委員提案

提案題名①	森町町長杯 小学生・中学生タイピングコンテスト
提案内容 (現状・効果)	【目 的】 ● 遅れている子どもたちの IT リテラシー向上（よみ・かき・パソコン） ● 地域大人たちへの、パソコン&インターネットの普及・啓蒙 ● 高齢者への影響（認知症予防にパソコン&インターネットが効果的） ● どこの地区でもやっていないため、森町の問題性 【方 法】 毎年開催されている毎日パソコン入力コンクールと連動 http://www.maipaso.net/

提案題名②	役場職員・教職員の ICT スキルアップ講習（年間）
提案内容 (現状・効果)	今後、ふるさと納税・観光・名産・移住者促進・企業誘致など町役場として、町内外に、情報発信しなければならないことは、多くあります。また、業務の効率化を図るためには、ビジネスソフト（ワード・エクセル・パワーポイント）のスキルも必要不可欠です。 町民の手本である、役場職員様教職員様の ICT&パソコンスキルを向上させることは喫緊の課題です。 【講習内容】（案） ・ビジネスソフト（ワード・エクセル・パワーポイント講習） ・スマホ講習 ・ブログ講習 ・SNS（Facebook・ツイッター）講習 ・動画作成講習 ・セキュリティ講習 【講師】遠州パソコン寺子屋 寺子屋長 パソコン&IT 講師歴 17 年 マイクロソフト認定 世界基準のパソコン資格試験 MOS 試験官